



NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 土本、濱下

(電話) 06-6949-6435

令和6年11月29日

内航船員の確保・育成対策 守口市立樟風中学校にて出前講座を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの高齢化は著しく、将来における担い手不足が生じないように十分な数の船員の確保が必要とされております。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、近畿内航船員対策協議会と連携して、中長期的視点に立った取り組みの一環として、近畿管内の各小中学校を対象に出前講座を実施しています。

今般、守口市立樟風中学校において、出前講座を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日：令和6年11月19日（火）

対象者：守口市立樟風中学校：中学2年生18名

講師：近畿内航船員対策協議会 磯合 信之 氏

講義内容：海運の重要性と船員の仕事について

配布パンフレット等：

- ・「船の仕事ってなに？」（日本内航海運組合総連合会）
- ・「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）

配布先：海運関係業界プレス

守口市立樟風中学校で出前講座を実施しました。

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：山本一人 三興海運(株)代表取締役会長）では、内航の若年船員の確保・育成に対する施策の一つとして、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子ども達の興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢として捉えてもらうことなどを目的に「出前講座」を実施しています。

今般、近畿内航船員対策協議会 磯合 信之構成員（三興海運（株）専務取締役）を講師として、令和6年11月19日（火）に守口市立樟風中学校において、「出前講座」を実施しました。

今般の出前講座は、中学校からの依頼で2年生18名を対象に、進路学習の一環として企画したものです。中学生が実際に仕事をしている方から話を聞いて望ましい勤労観、職業観、及び職業に関する知識を身につけてもらうとともに、自分を理解し、主体的に進路を選択する能力を育てることを目的として実施しました。



講演のテーマを「海運の重要性と船員の仕事について」とし、船員としてのやりがいや、船員に進むための進路にも触れながら、海運業が日常生活にどのように関わり、担い手となる船員がどのような働き方をしているのかを伝えました。

船員に接する機会の少ない生徒に、物流には陸運、空運、海運があることを挙げて、その中でも海運は、日本の貿易量の約99%以上を運んでおり、資源が少なく輸入に依存している日本において、安定的な経済活動と日常生活を支える非常に重要な役割を担っていることを説明しました。特に、私たちの生活に深く関わりがあることを理解してもらうために、日本で製造・加工していても、原料の多くを輸入に頼っている食料品や、発電や工場で使用する石炭や石油など、具体例を提示しながら説明しました。

※生徒たちは、船が止まるとさまざまな産業が停滞し、日常生活に支障を来すことを理解し、海運の重要性を認識できた様子でした。

次に、船の強みとして、一度に大量の物資を運ぶことができる点を紹介し、大量輸送の一例として、大型船のデッキの大きさはサッカーのフィールドが3面並ぶほどになることを説明しました。また、船員は何日も船に乗ったままになるため、仕事と生活が同じ場所になるという特徴があり、船員には衣食住が保障されていることも紹介しました。さらに、船員の給料は、陸上職に比べて高く設定されていることを伝えると、生徒だけではなく先生も興味を持ったようでした。



最後に、「物流には、色々なものを運んでいる内航船というものがあって、船員という仕事があるということを知っておいてほしい」とメッセージを送りました。

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会では、出前講座が生徒の職業観の形成につながることを期待するとともに、将来の職業選択にあたり「船員」の仕事が選択肢の一つとなるよう、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのPR活動を引き続き積極的に行いたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)